

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672700297		
法人名	医療法人社団 正峰会		
事業所名	モンファミーユ舞鶴(西棟)		
所在地	京都府舞鶴市和田1065		
自己評価作成日	令和3年11月8日	評価結果市町村受理日	令和4年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2672700297-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上の梅湊町83-1「ひと・まち交流館」1階		
訪問調査日	令和4年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・昨年度に引き続き感染予防のため外出の制限を実施しているため、夏祭りや敬老会、食事作りなど施設内で季節を感じられる行事の開催が出来るように工夫し楽しい時間を共有しました。
 ・リハビリ目的で法人内の老健と協力しGHでリハビリを必要とされる方がリハビリのため老健へ入所しリハビリを受け再度入居することができるよう法人内施設と協力体制を取っています。
 ・職員の介護福祉士資格保有率が高く、根拠に沿った認知症ケアを提供しています。生活の中で役割を持って過ごすことや趣味活動など認知症をお持ちの利用者様の出来ることや感じることは何かを職員で共有し、日々生活していただく中でやりがいや楽しみを持って過ごして頂けるようケアを実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自然を感じられない施設は魅力がない」という法人の思いで海岸近くに居を構えた当事業所は、設立後18年を経て、地域に不可欠な存在としてその価値を高めてきました。昨今は当事業所も例外なくコロナ禍に見舞われていますが、入居者にとっての安心材料が5つあります。①職員の異動が稀で信頼する職員による家族的なケアを受けられる②アンケートを年2回とり入居者や家族の要望に真摯に応えてもらえる③職員の介護福祉士有資格率は100%で、うち認知症介護実践者及びリーダー研修修了者が約50%と専門職の技能が高い④近くの系列老人保健施設との交互利用が可能で、そこでのリハビリにより心身機能の低下が防止できる⑤地域の医師・薬局の薬剤師や老人保健施設の看護師・管理栄養士・作業療法士等がケアスタッフとして関わり多彩な支援の手に包まれている等の利点があるまま暮らしの安心につながり、広報誌「ひだまりだより」には入居者の笑顔が満載です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をもとに、職員は毎日朝礼やケア会議、部会時に勤務職員で唱和を行い理念を確認しています。	「地域とともにあなたと生きる」という法人理念と8つの基本方針に基づき職員が策定した事業所の基本理念「笑顔とぬくもりのある暮らしの中で、一人ひとりが自分らしく生きる」と3つのホーム目標があり、事務所内と玄関の職員タイムカードの前に額に入れ、掲示している。唱和と目視により職員周知を図り、日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば、地域の学校との交流や運動会への参加や、地域神社の子供みこしがホームに来られ祭りに参加するなどありましたが、昨年度に引き続き今年度も参加は見送っています。	地域との結びつきを大切に、祭り神輿、体育祭、保育所との交流等をしてきたが、コロナ禍により中止となり、現在は近くの道路や公園の定期清掃を継続している。地域の高齢者の集まりである“サロン”を8月に開催し、体操や腰痛予防の話をしたが新型コロナの状況が厳しくなり9月からは止めて、メンバーに健康メニューのパンフレットを郵送している。月刊「ひだまりだより」は回覧版で周辺の町内に回してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度同様認知症サポーター養成講座は開催できていません。2020年に地域の自治体で開催させていただいて以降開催はありません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様の入居者状況・行事・事故報告などの報告を運営推進委員へ行っています。地域の情報や委員会の中での意見は、入居のお客様に反映できるよう検討を行っています。	運営推進会議は新型コロナの動向により、殆ど書面でこなっている。家族に写真と近況を書いた手紙を配布する際に意見欄を設け、内容により運営推進会議での検討を考えているが、全く意見は出ていない。議事録には事業所の運営状況、入居者の年齢構成、主な行事、ヒヤリハット、職員研修等多岐に亘る内容が記されている。	運営推進会議の参加メンバーはどのような立場の方が参加されているのでしょうか？お名前だけでは分かりませんので、今後議事録作成の際には記載されるようお願いいたします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所職員、地域の町内会長、民生委員の方たちと連絡をとり、事業所の実績やケアサービスの取り組みを運営推進会議などで報告しています。算定要件等の確認も市の担当へ相談しています。	運営推進会議後の議事録送付や次の会議に向けた意見聴取、対面開催時の出欠、骨折等事故の届け出や内容確認などで連絡を取り合っている。市役所からどれ位の介護度の方が入所可能かと問い合わせが入る場合もある。以前は介護相談員の来所と意見交換会があったがコロナ禍で中断している。AED講習や防災訓練で消防署と連携している。	

京都府 モンファミーユ舞鶴(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は全職員が必須で受講し、研修報告書提出、確認テストの実施。本年度から動画視聴研修を実施。玄関の施錠は夜間のみで日中は施錠していません。	系列の老人保健施設で安全対策・身体拘束廃止委員会を毎月開催し、出席した職員は事業所に帰り伝達する。職員個々で身体拘束の動画研修をして、最後にテストと報告書を作成して、ケア会議で全職員の履修確認をしている。グループホーム部会(月1度の職員会議)で日頃のケアが適切か話し合い、外出したそうにしている入居者には一緒に海辺まで散歩するなどしている。センサーマットの方が3名おられ、職員間で協議し見守りと位置づけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修も全職員、必須で受講し、研修報告書提出、確認テストの実施。本年度から動画視聴研修を実施。今年度は部会にて高齢者虐待防止自己点検シートを実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要とされている方はおられません。制度について学ぶ機会を部会などで行う機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は書面で説明を行い、改定などの際は同意書をもらい、納得された上で行っています。疑問点や質問に対しては、その都度説明を行い、理解と納得をしていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にアンケートを家族様宛に送付し、要望や意見を返信していただいています。その内容を職員間で共有し、事業計画にも反映させ取り組めるように努めています。	コロナ禍により家族等の直接的な意見はあまり聞けていないが、ガラス越し面会の要望に応え、玄関ガラスの内と外でタブレットを用いて声を聞きながらの面会をしている。リモート面会やインスタグラムで日頃の様子を見る家族もある。毎月本人写真や近況報告を送付し、下欄に家族の意見を募っているが反響はない。家族アンケートの集計では満足度の高さが言葉と数値に表れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部会、各棟のケア会議で管理者と意見交換を行っています。また、上期下期の期首と中期に個人面談を行うことで反映されています。	日頃から話しやすい空気があるが、現在は正職員は年4回、パート職員は年2回の面談を実施し、半期ごとに個人目標と接遇目標の達成状況を確認し職員意見を聞いている。働きやすい様に勤務表やシフトの調整をし、学びも保障し、離職もない。入居者とともに誕生日ケーキを作る案や手作りイチゴ大福、回らないカウンター寿司、ドッグカフェなどで楽しむ案を出し実践に移せている。良いアイデアはすぐ実現させてくれるので、やりがいがあると職員ヒアリングで聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、働きやすいように職場環境を整備、時間調整を行うなど向上心を持って業務をおこなえています。今年後は担当業務に取り組める時間を可能な範囲で勤務内に配置。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修(Zoom)、内部研修(動画視聴)に参加できるように、個々に参加の案内、勤務調整を行い研修に参加する機会を設け職能チェックリストを使用し習熟度のチェック。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	共同GH行事やGH勉強会は開催されませんが、WEB研修、意見交換会の場があり、他事業所の取り組みや意見を部内にフィードバックすることでサービス向上に取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報提供を頂き可能な範囲で聞き取りを行い、要望に耳を傾け、日々の関わりの中で不安の解消や傾聴を行うことで信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込み、契約時面談において、ご家族のご本人に対する思いや入居後の要望等を確認し、GHに入居後に可能な支援について共に考えていける関係作りを意識している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前・契約時の面談でお聞きしたこと等をアセスメントシートに反映し、お客様、家族様のニーズを把握し本人様の状況に合わせたサービスを提供できるように対応しています。他のサービスについては現在利用はないが要望があれば対応していきます。		

京都府 モンファミュー舞鶴(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の状態を把握し、日々の暮らしの中で役割を持っていただき過ごしていただけるよう計画を立て、他者との関係を築けるように橋渡しを行いながら本人様に合った日常生活が送れるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	例年は家族様参加の季節行事や日帰り旅行などの企画を実施していたが昨年度からは定期的に担当職員の面会、電話での報告、お手紙での報告を実施し日々の様子をお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ガラス越しですが、ご近所の方と犬が面会に來られ会話されたり、感染予防を徹底し馴染みの美容院に行かれるなどしています。	外出機会は激減したが、自室に好きな花を生けたり、テラスにひまわりを植えたり、春のお茶会や書道を楽しみ、動画配信やDVDを流して歌や体操などを楽しんでいる。皆で古生地を加工して作ったガーランドを万国旗のように天井に吊るしてリビングを飾ったり、現在は段ボール製の神社を作成して手作業を楽しんでいる。ガラス越し面会やオンライン面会、インスタグラムなどで関係の継続を図っている。手紙や電話の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様の性格や相性と尊厳を考慮し座席の配置を行い、必要に応じて職員が関わりを持つことでホームでの生活を穏やかに過ごして頂けるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され退所になられても、病院、老健との連携を図り、入居調整を行い支援に努めています。お客様、家族様の意向を尊重しています。骨折後入院手術され、法人内老健でリハビリ後に再入居。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難なお客様でも関わりの中で気がついたこと、表情や動きなどで感じたことなどを記録に残し、毎月あるケア会議で情報共有を行い、本人様に一番良いケアを考え実践しています。	本人の心理面に着目した法人内のグループホーム共通のアセスメントシートを用いて、本人の願いを丁寧に聞き取り、6か月ごとに追加情報を加えて更新している。お風呂に長く浸かりたいと希望される方の意向をアセスメントと介護計画にあげ、医療面も考慮した上で午前中にゆっくりと入浴できるようにした例もあり、本人の意向の実現に努めている。	

京都府 モンファミリー舞鶴(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人様の情報を家族様や全入所施設から聞き取り、趣味や馴染みのあるものを日々の生活とケアプランに取り入れ実践しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録確認と1回/毎月開催の各棟のケア会議などで検討、情報共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前に家族様、本人の意向を確認、思いを反映したケアプランを作成。毎月のケア会議でモニタリングを行い、随時本人様の状態にあった介護計画を作成しています。	本人や家族から意見を募り、職員と、場合により看護師や地域の薬局の薬剤師も参加して、サービス担当者会議を開催し介護計画を作成している。介護職は#で番号を付けた介護計画と実際の支援を照合しながら診療録(介護記録)を付けている。毎月のモニタリング結果を6か月後のアセスメントに反映させ、次の介護計画に生かしているが、急変時は随時計画を更新している。介護計画には介護職以外に主治医、老人保健施設の作業療法士、管理栄養士、地域の薬剤師等の関わりが明記され手厚い支援体制がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を記事に残している。ケア会議では気づきなどを情報共有、ケアプランに沿ったケアがされているかを振り返り、現状にあった介護計画作成をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的に外出が困難になる前に馴染みの場所等へドライブに出かけることや依然住まわれていた地域への外出などの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域のボランティアの訪問があったが、昨年度から外出を制限させて頂いている中、移動スーパーがホームに来た際は、一緒に品選びをすることもあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がありますが、病状や以前からのかかりつけ医を希望される場合は他の病院への紹介状をいただき、柔軟に医療が受けることができます。	入居者のうち2名は従来からの主治医に家族と通院し、あとの方は2週間に1回、入居者によっては週1回提携医の訪問診療を受けている。必要時は往診もあり、併設の老人保健施設と兼務の看護師が24時間体制でサポートしている。他科受診で家族が遠方の場合には事業所が通院介助をする事もある。老人保健施設からの作業療法士・セラピスト等の来所指導や協力医の歯科往診や歯科衛生士の口腔衛生指導もある。機能低下防止のために定期的に老人保健施設とグループホームを交互利用される方もおられる。	

京都府 モンファミーユ舞鶴(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に異常が感じられる際には、連携している看護師に状況を報告し指示をもらっているDrにつないでいただく場合もある。その後の経過も適時報告を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時・退院時には施設での情報を提供し、安心して治療を受けていただけるようにしています。地域連携室の担当者と入退院の相談を行うなど医療機関との連携に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様、医師、看護師、ケアマネ、介護職員などで話し合い、家族様へ十分な説明を行い、本人様、家族様の希望を取り入れ終末期のプランを作成しています。記録に残し、状態など様子を適時家族様に連絡しています。	「『重度化対応』に関する指針」に沿って看取りへの意思確認を重ねながらこの1年で3名看取り、普段はコロナ禍により面会禁止であるが、終末期は親しかった方との別れを惜しむため面会の機会を持ってもらい家族等に感謝されている。当事業所の職員は全員看取り経験者であるが、毎年併設の老人保健施設の看護師を講師として、対面での看取り研修を受けて知見を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、連絡体制の確認や対応手順の確認を行っています。また急変時などの対応などの記録を振り返ることもしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市の消防職員の指導のもと、年2回訓練を行い全職員が訓練を体験しています。災害発生時に備え、近隣老健へ避難できる体制が整っており、必要な物品などの確保も指定された場所に保管しています。	1回目は通報訓練、2回目はシーツを使った利用者搬送訓練を消防署員の指導のもとでおこない、総評やふり返りから次回の課題を明らかにして災害への対応力を身につけている。入居者も徒歩や車椅子で玄関に出て避難訓練に参加している。山崩れを想定し、併設の老人保健施設2階に避難する合同訓練も実施している。アルファ化米やカレー、水、カセットコンロなどを備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇から業務報告書にて個別に接遇目標の設定と振り返りを行い利用者様に行動を止める言葉やプライバシーを損ねない言葉使いを取り組んでいる。	職員は毎月1回の業務報告書で、接遇のふり返りと次月のすぐできる接遇目標を設定し、意識を持った介護ができるようにしている。入居者を〇〇さんと呼び、家族が見聞きして困るような慣れあった関係にならないように管理者は指導している。家族アンケートにも「人権意識が高い」と記されている。全職員が保健・医療・福祉サポートサイトでのフォローアップ研修や動画配信を利用した「不適切ケア」「クレーム苦情対応」などの研修を受けて確認テストと報告書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らし中で、意思決定が出来る方については、自己決定出来るよう支援している。認知症であっても自己決定を出来るよう選択制にすることや普段の行動や言動から情報を収集している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床・就寝の時間はありますが可能な限り本人様の希望や日々の状態、ペースに合わせて生活して頂ける用に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昨年度好評であった行事の美容サロンで、美容バックやマニキュア、毛染め等を希望される方には行いたくさんの笑顔を見ることが出来ました。お化粧品等される方についてはご家族に依頼し化粧品や鏡を準備して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事等の食事作りがあるときは、準備や調理を手伝って頂いています。日々の食事は給食のため配膳や食後の食器洗い等を職員と一緒にしています。	法人のセントラルキッチンから入居者の食形態に合わせた食事が提供され、ご飯はユニットで炊き、入居者はとりどりの陶器に盛り付けたり食器洗い等できる事をしている。年末には餅つきを、新年会には職員と調理して焼き焼きを楽しんでいる。テイクアウトの握り寿司で選べるカウンター寿司を提供し、秋には炭火でサンマを焼いて食べたりと入居者が楽しむ様子を広報誌やインスタグラム等で発信している。普段は刻み食の方が、好物の握り寿司ならまるごと食べられる様子を写真に撮り、意外な一面も家族に伝えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の生活記録内に食事・水分摂取量を記載し個人の栄養スクリーニングを行っています。本人様に合わせた食事形態、好みのもので提供しています。(介助用の食器や魚嫌い等に対応)		

京都府 モンファミュー舞鶴(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	併設老健から協力いただいている歯科衛生士が1回/2週毎に来られ、口腔内のチェックを行って頂き、ユニット介護職員にその方にあった口腔ケアの指導をして頂き、毎食後行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄記録に排泄パターンを記載。トイレで排泄できるように声掛けし誘導を行っています。可能な範囲でトイレで排泄が行えるよう支援しています。	本人の力を活かしてトイレでの排泄を進めている。各種排泄関連の記録をもとに、利用者にあった排泄用品を用いて快適な状態を保てるようにしている。骨折した入居者は、排泄動作や他の生活動作を骨折前に近づけて当事業所に戻れるように、併設の老人保健施設と連携し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分摂取の促しや、食物繊維の摂取によって自然排便が出来るように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂好きの方には、その方に合わせた入浴時間でご入浴いただいています。入浴の声かけに拒否された場合は、時間や日時を替え対応しています。身体の状態によっては、介助を実施。個人にあわせた支援をしている。	基本は週2回午後に入り、シャワー浴が好きな方や朝にゆっくり時間をかけて入りたい方の要望にも対応し、重度の方は併設のデイケアセンターのリフト浴を利用している。同性介助の希望に沿えない時は、入浴日時を変更してもらう場合もある。湯加減は本人に合わせ、シャンプー等は好みの物も使い、月1回季節にあった入浴剤を用いて楽しんでいる。拒否の場合は時間を変えたり、清拭に変更するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合った休息や安眠できるよう状況に応じた対応を行っている。リビングで過ごされる際も、状態をみて居室で休んで頂くことも行っています。就寝の際、消灯は本人様の希望通りに行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今年度ケア会議に担当の薬剤師が出席。処方されている薬の目的など聞き職員全員が把握しています。また、症状の変化がある場合は医師、看護師に報告し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護計画書に役割や趣味を取り入れ、継続した支援を行っています。施設周りの散歩や季節のドライブを実施。また性別やADLに合わせた楽しみの提供を心がけ支援しています。		

京都府 モンファミュー舞鶴(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年は日帰り旅行や買い物ツアーを行っているが今年度は、外出については感染予防のため車内からのドライブや公園の散歩等を実施。併設老健におられる知人との面会ヲ実施。	戸外の好きな方とは近くの海まで散歩をしている。金剛院の紅葉がりや展望のよい五老が岳公園などへのドライブで、車窓から季節の移り変わりを楽しんでいる。また、住んでいた家を見に出かけたりもしている。併設の老人保健施設入居の知り合いとガラス越し面会を楽しんでいる方もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を預かっていないため、必要なものがあれば家族様を持ってきて頂くことや、家族様同意のもと施設で立替で購入させて頂き、後日家族様にお支払いしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が家族様へ電話等の連絡をした際、本人様に話していただく場合もあります。本人様の希望や訴えがあるときは電話を使用していただくこともあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはその時の季節の飾り付けをし中庭には季節の花を植えています。共有空間は清掃を行い清潔を保ち、居心地良く快適に過ごしていただけるように配慮しています。	平屋で回廊型に建てられたユニットの真ん中の光庭に四季の花々を植え、採光と季節を感じられる造りになっている。食堂・リビングには長方形や円形のテーブルがあり各々が新聞や広告を見たり、テレビや音楽や手芸などを楽しんでいる。談話室は畳の間に炬燵やテレビを置き、寛げるようにしている。空気清浄機を設置し頻繁に換気や消毒をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の思いにあわせ居場所や独りにならないよう、気の合った人と過ごして頂けるような配慮を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望があれば、使い慣れた家具や布団を持参し入居していただいています。自宅で使っておられた本や写真を持ってこられてる方もおられ、居室は可能な範囲で本人様の希望されるように配慮しています。	居室の扉は引き戸で室内には洗面所やベッド、収納タンス、エアコン等が備え付けられている。家から、椅子やテーブル型炬燵、布団、位牌、家族の写真、ラジオ、カセットデッキ、俳句の本など馴染みの物を持込んでいる。清掃は入居者と職員とで、消毒や空調管理、換気は職員がしている。窓からは広くゆったりした庭園の緑が眺められ、周囲に陽光を遮る建物は無く、室内は明るい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の動線を一人ひとり、お客様の状態に合わせています。居室の表札以外にも飾りをつけることで目印にされている方もおられます。		